

備えがあるから
憂いなし!!



Take Free!! ¥0

08

VOL.

2017 WINTER

INDEX

1. 京都府で取り組むテロへの備えと
災害からの安全なまちづくり
2. 非常用多言語拡声装置MLIタッチメガホン
エジソンハードウェア㈱
3. 生存者を1分、1秒でも早く発見したい!
NPO法人日本捜索救助協会代表理事
江口タミ子さん
4. 未来の防災ガール
日本大学 危機管理学部 伊藤香奈子さん

防災のある暮らし

since 2013

防災最前線
interview

京都府で取り組むテロへの備えと 災害からの安全なまちづくり

京都府では2017年2月2日に「国民保護共同実動訓練」が実施されました。国際的な観光地の京都がテロの危機にどう臨むのか、また「災害からの安全な京都づくり」はどのような取り組みなのかを、京都府の危機管理監を務める小林裕明氏に聞きました。

国民保護の実動訓練を通して 地域全体でテロに備える

■京都府では「国民保護共同実動訓練」が行われ、昨年末には「観光地におけるテロ対策」地域で取り組むテロへの備えのシンポジウムも開催されました。これらは危機を見据えた活動ですが、危機や国民保護とはどういうものかを教えてください。

まず、危機には様々なものがあります。たとえば金融危機はそのひとつであり、組織内の汚職も危機になります。また地震や水害などの自然災害、鳥インフルエンザや新型インフルエンザの発生も危機になりますから、危機は

多岐にわたり、非常に多いものであるといえるでしょう。そうしたなか、京都府の危機管理とは、府民の身体・生命・財産が侵害される事象について危機対応をする、というのが基本姿勢になります。

さて2017年2月2日、京都府は内閣官房と共同で「国民保護共同実動訓練」を実施いたしました。この「国民保護」を端的に申し上げ

ると、外国からの武力攻撃やテロ災害から国民を保護することであり、地方公共団体は「国民保護法」に基づき、住民の避難・救護を実施し、被害の最小化を図るために実動訓練に取り組むわけです。

国民保護については、自治体だけではカバーできない部分があるため、京都府は実動機関となる消防、警察、自衛隊、さらに消防団などの関係機関と連携し、活動を共にすることになります。有事の際には負傷者が出るため、医療機関との連携も重要であり、災



Hiroaki Kobayashi

小林裕明氏

京都府 企画理事兼危機管理監

PROFILE

1978年京都府庁に入庁、山城広域振興局副局長(乙訓・おとくに)兼乙訓調整監、府民生活部長を経て、2015年4月から危機管理監に就任。「災害からの安全な京都づくり」に関する施策を所管する企画理事を兼ね、ソフト・ハード両面から部局横断的に防災施策に取り組んでいる。

害現場へは即座に、災害派遣医療チームDMAT（ディーマット）が出向くようになっていきます。また集落が孤立した場合は、ヘリコプターなどの活用が急務になります。そうしたさまざまな現場対応がスムーズに運ぶよう、われわれは年1回、総合防災訓練を行っており、そうした体制をもつて、京都府では7年ぶりとなる「国民保護共同実動訓練」に臨みました。

■京都が「国民保護共同実動訓練」を行う意義とは、どのようなものになるのでしょうか？

京都府は国際的な文化・観光地を抱え、世界文化遺産や国宝、重要文化財が多数あるなか、旅行者は年間約874.8万人が訪れ、外国人も約322万人が宿泊しています（2015年度調査）。京都迎賓館や国立京都国際会館といった海外要人の訪問受入施設や、大学などの研究教育施設、大企業の本社も多くあります。

そうした状況を踏まえて世界情勢を見ますと、世界的に有名な観光地のパリやベルリンでは、すでにテロが勃発していますから、世界に名の知れた京都がテロの標的になる可能性は高い、と考えなければなら

りません。そのためわれわれ行政が「国民保護共同実動訓練」を通して、京都でもテロが起きる可能性がある」というメッセージを出すことは、とても重要なことだと考えます。

今回の訓練の概要は、大規模集客施設でのイベント開催時に、危機事案が発生したという想定です。具体的には、京都競馬場で国際レースが開催され、外国の賓客も観戦されるなか、テロ組織によって化学剤（サリン）が撒かれ、負傷者・死傷者が出たという内容です。そしてテロ組織から犯行声明が出たのち、次の爆破予告では、国立京都国際会館と地下鉄烏丸駅が狙われる想定です。

当日は外国人を含む総勢約350人が被災者役で参加くださり、重傷者は市内の病院へ搬送し、軽症者は体育館に避難所を設け、そこへ避難誘導して安否情報の収集や心的ケアを行うものとなりました。外国人観光客の誘導については、多言語対応のメガホン・スピーカーなどを活用し、通訳ボランティアのご協力を得ながら避難誘導・医療救護を実施しました。また内閣官房との合同対策協議会や首相官邸とのテレビ会議も盛り込み、中身の濃い内容にすることができました。

当日は緊張感あふれる雰囲気のほか、多くの出動部隊や関係機関の皆さんが、使命感をもって各現場の危機対応に臨んでくださり、非常に充実した、実り多き訓練にすることができました。

■テロに対して、一般市民はどのような視点を持てば良いのでしょうか。

京都府の事例をお話ししますと、2015年10月、京都府警察が中心になり、「京都テロ対策ネットワーク」という組織を立ち上げています。このネットワークは現在38の団体・機関で構成され、京都府、京都市、自衛隊、医療機関などのほか、港湾・鉄道・宿泊関係・大学・商工系・寺社仏閣など、まさに官民一体となったオール京都の体制を敷いています。そして次の3つのスローガン、

●テロリストを京都へ入れない

●テロリストの拠点を造らせない

●テロを起こさせない

という方針のもと、ネットワークの連携強化を図っています。その意味において今回の実動訓練は、オール京都の活動の二環といえます。一般市民の皆さんも、街で不審な人物や不審物を見かけたらすぐに警察へ通報する、という行動を日頃から心掛け

ていただきたいと思います。街を守ろうとするたくさんの思いと目が集まれば、テロの未然防止は、達成できるものと思います。

■京都の街には文化財も多いですが、危機などからどのように守れるのでしょうか？

やはり地震や火災対策は重要になります。文化財の耐震化は、釘1本打てない状況で取り組まねばならないこともあり、非常に難しいものがありますが、対策をしっかりと進めて行きたいと思っています。また火災については、各地域の消防団や防火クラブなどが、熱心に消火訓練に取り組んでくださっていますから、文化財に対する防火意識は高いものと考えます。こうした地域の活動が、安全な街づくりにとはとても大切だと思います。

現在、京都府庁の府民生活部のなかには、「防災消防企画課」「災害対策課」「原子力防災課」という3つの課があり、総勢38人が防災関連の業務に当たっています。文化財保護関係については教育委員会などが所管し、そこが専門的な事柄に取り組んでいます。私は全庁的な総轄という立場を務めますので、関係機関と連携し、しっかりと業務に臨んでいます。

国民保護共同実動訓練の様子 [2017年2月2日]



災害からの安全な京都づくりは 地域の絆が何より大切になる

■小林危機管理監は「災害からの安全な京都づくり」というお仕事にも携わっていらっしゃいます。詳細はどのようなものでしょうか？

京都は2013年9月、大型台風によって、嵐山の渡月橋周辺の土産物店や旅館が浸水する被害を受けました。前年の2012年は宇治方面の川が氾濫し、2014年には福知山市でも大規模な水害が発生するなど、3年連続で国の「災害救助法」が適用される甚大な災害が起き



てしまったのです。この経験を踏まえて京都府は、河川の整備や河川監視カメラの設置、地域住民の避難訓練などに力を入れてきました。しかし、被害を予防する、あるいは被害を最小限に止めるという点においては限界があり、もう1歩進んだ防災対策が必要である、という考えのもと、2016年8月に「**災害からの安全な京都づくり条例**」を施行しました。

この条例には3つの大きな柱があります。1つは「災害情報の提供・把握」、2つ目は「総合的な治水対策」、3つ目は「地域防災力を充実・強化する」ということです。災害や危機が起きたとき、最も大事なことは、自分の身を守る行動を取る、ということです。そのためには、皆さんの住んでいる地域で、過去にどのような水害や地震が起きたのか、またこの避難所へのルートで逃げれば良いのかを、事前に知っておくことが大切です。

そのための情報源として、「**京都府マルチハザード情報提供システム**」の運用を昨年4月から始め

ました。このシステムを活用すると、パソコン上で、過去最大の降水量を基準にした浸水マップ、土砂災害の警戒区域、地震による液状化の範囲などを、住宅地図の精度で見ることができ、この地図は情報の加工やプリントアウトも可能ですから、誰もがマイ防災マップを作れるという訳です。

また、京都市と共同開発したスマートフォンアプリ「**KYOTO Tript**」(きょうとトリッププラス／詳細…11ページ参照)では、京都を訪れる国内外の観光客に向け、観光や防災の情報を4カ国語で配信していますから、ぜひご利用ください。

■条例の施行や防災情報の提供・発信など、さまざまな取り組みが進んでいるのですね。



はい、そしてもうひとつ、地域で防災力を高める取り組みも推進しています。それぞれの地域には例えば、液状化や浸水が起きやすい、木造家屋の密集地帯は火災や倒壊の危険性が高いなど、災害リスクが高いエリアがあります。そうしたところに「**特定地域防災協議会**」を設け、防災・治水に関する、包括的な対策を行います。

河川の場合ですと、上流の貯水施設はどうするのか、下流の川や下水道の整備は何をすべきか、道路を水害から守るには対策をどうするかなどを、府・国・市町村・地域住民が参画するこの協議会で協議し、災害種別に応じた具体的な防災計画を、その地域に見合った形で作って行きます。なお協議会は、先ほど述べた【災害からの安全な京都づくり条例】に組み込まれており、つまりは街づくりの段階から防災対策に取り組むことが、本条例の重要なコンセプトになっているのです。

■地域の防災力を向上させるため、どのようなことを心掛ければ良いのでしょうか。また災害に関して、一般企業は何を備えるべきですか？

地域の防災力という点では、発災時、高齢者やお体の不自由な方、小さなお子さん連れの方たちを支援し、守っていただくことがとても重要です。そのためには、地域に根差した活動をされている消防団や民生委員といった皆さんが、どこにどんな方がお住まいなのかという情報を得て、地域全体で災害弱者を支援する仕組みを作ることが大事ですね。【地域の絆】があれば減災につな

がりますから、ぜひそこを強めていただきたいと思います。そして住民の皆さん1人ひとりが、地域への関心を高めることが、減災だけでなく、テロ対策にもつながるものと考えます。

災害への備えについて、企業の皆さんにお願いしたいのは、**BCCP(事業継続計画)**です。大規模災害が発生すると、原材料が入らない、運転資金が途絶えるなど、さまざまな危機が起きます。そうしたとき、最低限の事業を継続するにはどういう手立てが必要なのか、という計画を立てておくことが重要であり、リスク管理が顧客や従業員を守ることにつながります。一つひとつの企業が強くなれば、街全体が強くなりますので、ぜひ、しっかりとしたBCCPをお願いしたいと思います。またご家庭での備えとしては、やはり非常用グッズの準備が必要でしょう。そして災害時における家族間の情報共有や伝達方法について、意思疎通を図っておくことも被害の最小化につながります。

■地域に関心を寄せ、備えることが大事ですね。

そうですね。テロや大規模な事故、地震などは突発的に起きるわけ

ですから、われわれ危機管理に携わる者は気を抜くことができません。そして行政ではテロや災害に対して、「こういう可能性があります」「避難してください」ということを、何回も何回も繰り返し伝えることが務めになりますから、そこは狼少年になってもやむを得ず、その呼びかけによって府民の生命・身体・財

産を守ることができれば、それですと考えます。危機管理の仕事は、空振りには許されませんが、見逃しは決して許されないものであると、私はいつも心に思っております。危機の予兆を見逃すことなく、今後も関係機関と強固に連携しながら、安全な京都づくりに努めてまいります。

「京」の魅力さんぽ

小林危機管理監が思う京都の魅力とは？

嵐山や保津峡は春紅葉や紅葉が見事ですし、祇園や先斗町などの夜の風情も素晴らしいと思います。改修を終えた宇治平等院もいっそうの輝きを放っています。こうした風景や寺社仏閣が京都の醍醐味ですが、もうひとつ、「街衆」といわれる皆さんや、伝統工芸に携わる方たちがいてこそ、歴史的な祭りや文化が守られているのだと思いますね。京都府は今、「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」もPRしています。何度訪れても楽しめる街であることが、京都の魅力だと感じます。



特集

非常時に命を守る装置を！使命感を胸に開発した「非常用多言語拡声装置MLEEタッチメガホン」

エジソンハードウェア株式会社
(北海道札幌市)

東京オリンピック・パラリンピックが3年後に迫った今、ニュースでは、街中の多言語表示の必要性が説かれ、また英語の音声案内タクシーが紹介されるなど、外国人向けの多言語サービスが時代のキーワードの様相を呈している。そして東日本大震災以後の日本は、防災面でも多言語が重要視されてきた。今号では、防災に特化した多言語メガホンと、製作を手掛けたエジソンハードウェア株式会社を紹介する。

ものづくりの企業が 防災・減災を目指した メガホン開発をスタート

「いいはもつと小さくできないだろうか？ この部分はもう少し軽くしてみようか、といった会話が職場に飛び交っているんです。お客様のニーズに応えるため、社員一丸となって創意工夫に臨めるところが、当社の1番の強みです」。営業部の岩田健太郎さん



▲営業部 岩田健太郎さん



▲営業部 加藤勝織さん

んと加藤勝織さんが、こう語ってくれた。

北海道札幌市に拠点を置く「エジソンハードウェア株式会社」（以下、エジソン社）は、辻誠代表の電子の技術で明日を開くという志の下に、1984年に創業されている。同社の主力事業は電気の制御機器製作であり、大手家電メーカーから特別注文を受注し、世の中になかった製品や新しいシステムを生み出してきた。

近年では、デジタル・アナログの

電子回路における基盤の設計・組み立てといった事業のほか、太陽光・風力発電システム設計・製作などの自然エネルギー分野、あるいは洋上の水温を遠隔測定して陸地でデータ化するテレメーターのシステム構築・開発・設計・製作などの海洋技術も手掛けている。官公庁の案件も多いため、社名や製品名が表立って出ることとは少ないが、社員8人の小さな企業が創業33年を迎えたことは、技術力の高さを裏付ける実績といえる。

そんなエジソン社が現在、全力でプロモーションしているのが、オリジナルの防災グッズ「非常用多言語拡声装置MLEEタッチメガホン」（以下、多言語メガホン）である。開発の経緯を加藤さんに聞こう。

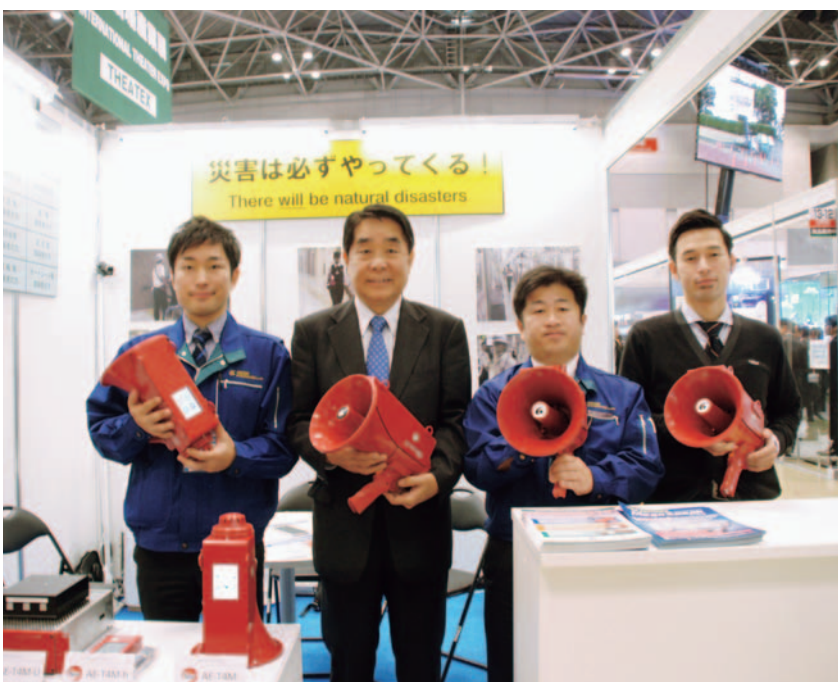
「当社の多言語メガホンは、東日本大震災をきっかけに開発されました。あの時、首都圏では交通網が完全にマヒし、駅では避難や誘導を呼びかけるアナウンスが繰り返されました。しかし、そのほとんどが日本語の案内のみで、言葉を理解できない大勢の

外国人が途方に暮れているのを目の当たりにしました。

切迫した状況をJ・Rの関係者から聞いた私は、災害などの非常時に外国人がどう行動すればいいのか、情報がまったく提供されていないことに、強い問題意識

をもったのです。そして、英語などの多言語でメッセージを流せるメガホンがあれば、防災・減災に必ず役立つと思い、発災直後から、社を挙げての開発を始めたのです」。

のちに、国土交通省・観光庁が



▲写真左から岩田さん、代表取締役辻誠さん、加藤さん、販売代理店の大藤エンジニアリング(株)代表取締役 藤田聖人さん



▲メガホンの上部には突起があり、そこへベルトを通せば肩掛けに。突起を台座にすれば、置き型での利用も可能

発表した『災害時における外国人旅行者への情報提供に関する調査事業(資料編)』にも、震災当時の混乱が報告されている。例えば『日本語での情報提供ですら困難であった／鉄道会社』、『空港内の緊急時のアナウンスは日本語のみで外国人客には情報が伝わらなかった。何が起きているのかわからない人もいた／航空会社』など。また、「避難し



▲写真・MLIメガホン左側面
非常用多言語拡声装置MLIタッチメガホン。[ただ今駐車場が満車です]などの一般的なメッセージもカバーしているので、日常業務にも活用できる

英語・中国語・韓国語・日本語 4つの言語で484通りの メッセージを本機に搭載

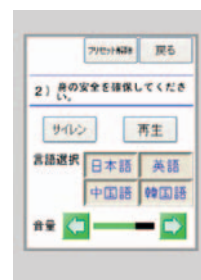
エンジン社製の多言語メガホンは、そうした非常時において、より多くの人に状況説明や避難誘導ができるよう、さまざまな工夫が施されている。

「当社のメガホンの1番大きな

ろ」ではなく、「逃げろ」と言わないうと通じなかった、そもそも地震を知らない外国人もいるなどの報告もあり、災害時における外国人旅行者の避難・誘導は、各方面に大きな課題を残したのである。



▲MLIタッチハンディ
車載用途のハンディサイズの多言語再生装置。消防車など、放送設備をもつ自動車のスピーカーに接続できる



▲メガホンの案内表示の部分
タッチパネルの簡単な操作性がユーザーに支持されている



特徴は、英語・中国語(北京語)・韓国語・日本語の4つの言語で、地震です、大きな揺れに備えてください、机の下に隠れてくださいといった、想定しうる484通りのメッセージを、本機に録音済みであるという点です。ユーザー側が、タッチパネルのアイコンを選択し、メッセージを再生放送することが出来ます。非常時の際、外国人に対しても、また日本人に対しても、適切なアナウンスを流すことができます。

なお、本機はタッチ操作さえ覚

えれば、アルバイトやパート社員でも、同じアナウンスが流せるわけですから、防災対応の標準化、という意味においても非常に有効です。

◀ 泊発電所(北海道電力の保有する原子力発電所)の避難訓練にも、多言語メガホンが使用されている

～くらしを守る 企業を守る 社会を守る～

レスキューツール

LUKAS

Because you never get a second chance

eドローリック

(第2世代)が

新登場!!

eドローリックの特徴

- スイッチオンで直ちに救助!
- 2電源方式!(Liイオンバッテリー、AC100V)
- 使用時間:約1時間!

S311E2

カッター

SC250E2

コンピツール

SP310E2

スプレッダー

第2世代の特長

パワーアップ!

使用時間が従来の2倍!

軽量化!

電動油圧救助資機材

帝国繊維株式会社

【本社】〒103-0027 東京都中央区日本橋2-1-10 柳屋ビル7F
TEL:03-3281-3033 FAX:03-3274-6397 <http://www.teisen.co.jp>



Normeca Asia
SUPPLIER OF MEDICAL EQUIPMENT

日本で最初に災害・救急医療を導入!
「正しい教育」と「正しい装備」を提供します!
<http://www.normeca-asia.jp>

株式会社ノルメカエイシア 東京都台東区浅草橋3丁目19-3
TEL:03-5687-3899(代) FAX:03-5687-3911

新登場!

**各部屋に母国語で
アナウンスができる
「アラームシステム」**

エジソン社は今般、ホテル向けの「アラームシステム」を開発し、新たに提供を始めた。このシステムでは、チェックイン時に、部屋ごとの言語と滞在期間をパソコンに設定するだけで、緊急時などに、宿泊者の母国語でアナウンスが流せる、というものである。多言語メガホンは4カ国語対応が基本だが、今後はオリンピックなどに向けて、より多くの国と地域からの来日者が増えることを見込み、アラームシステムではさらに、ロシア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語、アラビア語、ベンガル語、ヒンディー語、イタリア語など、合計 14 カ国語に対応できるよう開発されている。本機の場合、導入するホテルごとに階数・部屋数・緊急時のアナウンス内容が異なることから、各クライアントに向け、オーダーメイドでシステムを構築していく。



メッセージ文

- ① この欄で火災が発生しました。急須1階へ避難してください。
- ② この欄で火災が発生しました。急須5層へ避難してください。
火災が発生しました。急須8階へ避難してください。
- ③ たばこの火など、火元の確実な消火してください。
- ④ 強い地震が発生します。近い客席で落下物につかまってください。
地震が発生しました。身の安全を確保してください。
- ⑤ 当ホテルは耐震構造になっています。ご安心ください。
- ⑥ エレベーター・エスカレーターは停止します。階段をご使用ください。
- ⑦ 外は大雨が降っています。外出はお気を付けてください。
- ⑧ 外は大雪が吹いています。外出はお気を付けてください。
- ⑨ お休みをこころいます。今日は晴天です。思い出しの日をお過ごしください。
- ⑩ あいにくございます。雨風の予報が出ましたが、お帰りは9時30分までとなっております。
- ⑪ お帰りの時間を延ばしていただくべく、お部屋にアメニティをご用意しております。
- ⑫ お帰りにくい場合は、ともなへ10時、ご予約のフロントにお帰ります。お取柄もございませんよう。お支度ください。

ホテル仕様の「アラームシステム」

非常用と謳うからこそ
ネイティブの翻訳・肉声に
こだわりのもって開発

多言語メガホンのアナウンスの音声を作る過程では、文言を翻訳したのち、プロのナレーターの声で録音する、という工程を踏んでいる。こうした一連の作業には、ネイティブスピーカー4人

が携わり、翻訳やナレーションの
イントネーション・チェックを綿密
に行っている。近年、自動翻訳や
音声合成の技術が進歩している
が、「当社の多言語メガホンは【非

常時に命を守る装置である」という使命感をもって製作し、製品名にも「非常用」と謳っている。すから、どんな状況で聞いたときも、すっと耳に馴染むよう、ネイティブスピーカーの肉声にこだわりの聞きやすさの面で、高いクオリティを追求しました。ここが、他社製品との大きな違いです」と岩田さんが力強く語る。

メガホンのボディは耐熱性樹脂

とスチールからなり、頑丈に造られている。そして肩掛け、あるいは置き型での利用可能であり、単2電池6個・最大音量で8時

間以上同じメッセージを流し続けることが可能になる。つまりは緊急の際、メガホンがアナウンスを続けることで、担当者はいち早く避難行動が取れるという訳だ。この点について岩田さんは、「東日本大震災で津波の被害を受けた南三陸町防災対策庁舎で、住民に避難を呼び掛けながら亡くなった職員の方の悲劇を教訓に製品設計しました」と語る。

品設計しました」と語る。

多言語メガホンの導入は現在、観光地や商業施設、テーマパークやショッピングモールなど多岐にわたり、2015年には空港な

どの交通機関、ホテル、旅館などの宿泊施設への導入が加速し、大手鉄道会社への大規模導入も行われた。またオリンピックの開催も控え、各方面からの引き合いが右肩上がりが増えていているという。

い
う。

「今後の展望についてお2人は、現在とは個別のお客さまの要望にお応えすべく、メッセージ内容のカスタマイズや、機器仕様の変更にも柔軟に対応しています。この点は、当社のものづくりのスピリットがしっかりと発揮できるところです。今後は他言語での

メッセージ追加も検討中であり、多言語メガホンの活用のを、さらに拡大したいと考えております」と話す。エジソン社の真摯なものづくりの姿勢を、日本の防災・減災に活かしたいと、意欲に燃えている。

エジソンハードウェア
株式会社

〒065-0001
北海道札幌市東区北17条東17-1-30
TEL: 011-748-6677
<http://www.edison-hw.co.jp/>

◆REPORT◆

生存者を1分、1秒でも早く発見したい！ その思いで救助犬を訓練しています



NPO法人日本搜索救助犬協会の代表理事を務め、救助犬とともに、全国各地の災害現場で捜索に当たっている江口タミ子さんに、活動への思いを聞きました。

迷い犬との出会いが縁で 救助犬を育てることに



チャリティー番組「24時間テレビ」のロゴが付いたワゴン車から、颯爽と降りて来た江口タミ子さん。「あの番組から『災害救助犬輸送車』を寄贈していただきまして。車が目立つから、救助犬のPRになってありがたいです」。江口さんの話し声をかき消すように、車内から犬たちの元気な声が聞こえてきます。



江口さんが救助犬と出会ったのは、19年前のこと。台風のある日、隣家のガレージに迷い込んだ犬を保護したものの、飼い主の手掛かりがなく、仕方なく自分で飼うことに。そしてしつけの為に、救助犬の指導教室へ通い始めました。

「教室に犬の扱いが上手な人たちがいたんです。リードに引かれて行進をしたり、障害物を超えたり、服従する様子を見て感心して、すごいな、私も救助犬を育て

24時間テレビチャリティー委員会から寄贈された【災害救助犬輸送車】。車内には犬のゲージ5台と人のベッドを設置。暑さに弱い犬のため、車体に断熱加工も施されている



てみたいって思っただけです。うちの子は雑種でしたが、頭と性格がよかったので訓練が順調に進み、救助犬のテストに挑みました。その結果、箱の中に隠れた人を探す【BOX】は練習通りで、きたものの、山林で人を探す【原野】の訓練は未体験だったので、木々の中へ入って行けずに終わってしまったんです。審査員の先生から「犬は訓練しないことはできませんよ」と言われて一念発起。それからは自分で工夫を重ね、さまざまな訓練をするようになりました」。

何とかして探さなくちゃ！
その気持ちで気仙沼へ

その後は保護犬が2頭増え、さらにシェパード1頭も加わり、

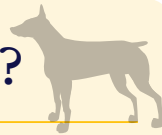
江口さんの指導は熱を帯びて行きます。そして訓練を重ねるなか、災害現場で活躍できる犬を育て、人の命を救いたいという気持ちが強くなり、仲間とともに2004年7月に「日本搜索救助犬協会」を設立。その3カ月後に



新潟県中越地震が起きました。「あの時、私は現地へ行くのを躊躇してしまっただけです。自分が行って本当に探せるのかって、不安でいっぱいでした。そうしたら、私の活動をいつも黙って見守っていた夫が、お前はこういう時のために訓練して来たんじゃないのか、行け！と言います。私はハッとして、すぐに出勤の準備を始めました。あのひと言が今につながっていますね」。

その後は新潟県中越地震、岩手・宮城内陸地震、東日本大震災、広島市土砂災害など、全国の災害現場へ出動。発災時には、支援協定を結ぶ行政の要請を受けて現地へ赴いたり、消防や警察とサーブিসエリアで合流して現地入りすることも。また被

捜索救助犬とは？



災害などによる行方不明者を、優れた嗅覚で捜索する犬のことです。NPO法人日本捜索救助犬協会では、所属メンバーたちが救助犬を育成・訓練し、災害現場で人命救助や遺体捜索に当たります。また平時は、行方不明者や迷い人の捜索も行っています。

「出動する時は怖いという気持ちではないです。それよりも、早く行かないと被災者が亡くなってしまうから、何とかして現場へ行つて探さなくちゃ！」という思いが強いんです。東日本大震災の時もそうでした。私が住む埼玉も激しく揺れたので、これは長期間の出動になるだろうと思つて、すぐに水と食料を買い足し、車に積み込みました」。

江口さんら4人が宮城県気仙沼市に着いたのは、震災翌日の3月12日の夜。高台の対策本部から白々と明ける沿岸の街を見下ろした時、言葉を失つたと言います。

「全てがガレキでした。もう、いろんなものが積み重なって...。もしかしたら、生存者がいるかも知れないから、ガレキの上のほうを探してほしいという指示を受けて捜索を始めました。救助犬は上を探しても、下から匂いがするとそこへ行きたがつたり、鼻をクツと近づけるんです。結果的には、犬が反応を示した場所のガレキをどかすと、そこにご遺体がありました。極限状態の現場で消防団の人が、俺たちもそこを探したけれど、見つけれなかった。やっぱり犬の嗅覚だな」と言つてくださったときは、ああ救助犬を出動させて良かったなつて、心の底からそう思いましたね」。

土砂や水の災害が増えた今、遺体捜索訓練の重要さを痛感

日本捜索救助犬協会の立ち上げから13年の歳月が流れた今、江口さんは新たな訓練に力を注いでいます。

「救助犬は生存者を1分、1秒でも早く発見するために訓練されています。でも実際、土砂崩れや水害になると、生存の可能性は本当に厳しいんです。そんな現場でも人が探せるよう、私たちは遺体捜索訓練を行っています。これはアメリカ式の訓練で、シグマシュートというご遺体の匂いの入ったカプセルを山林の中の【原野】に埋め込み、救助犬がそ

のカプセルを捜索するものです。

シグマシュートには、死亡の直後・後期、水難事故、血液、歯、ブラセクタ（胎盤）など、さまざまな種類の匂いがあり、訓練のために海外から輸入しています。昨今、ゲリラ豪雨などで災害が甚大化していることを考えると、遺体捜索訓練を経験しているほうが、現場で確実に役立ちますね。そして大事なことは、救助犬が匂いを嗅ぎ付けたときに見える行動の変化を、私たち人間が見逃すことなく、救助犬が反応を示したここを探してほしいと、自信をもつて言えることです。現場は人間の力が9割で、その残りをサポートしてくれるのが救助犬だと私は思います」。

後継者を育て、システムを確立させることが目標

救助犬を育成して被災地へ派



シェパードのブリリアント（メス・8歳）
江口さんと2ショット

遣する活動に対して、現状、国や地方自治体からは支援がないため、江口さんらメンバーが自己負担でまかなう部分が多く、活動費の工面は苦労が絶えません。それでも声がかかれば、全国の防災訓練に手弁当で参加し、救助犬の存在をPRしています。

「私の今の目標は後継者を育て、その人たちが救助犬の活動と生活を両立できるシステムを確立することです。この春に71歳になりますが、まだまだ元気に動けるので頑張ります。皆さん、日本捜索救助犬協会の応援をよろしくお願いします！」。

NPO法人

日本捜索救助犬協会

〒346-0104
埼玉県久喜市菖蒲町三箇759-13
TEL: 0480-8518340
<http://www.japan-srda.net/>

消防用品総合商社 [URL] <http://www.akao-co.com/>

ホルマトロ油圧救助器具

消防特殊車両

消防服装関係

□東京営業部：東京都千代田区外神田 6-13-13 □大阪営業部：大阪市西区新町 4-13-1 □福岡支店：福岡市博多区那珂 3-11-20 □名古屋支店：名古屋市中区栄 3-23-10 □仙台営業所：仙台市青葉区花京院 2-1-61	TEL: 03-3832-2201 TEL: 06-6532-4131 TEL: 092-431-9221 TEL: 052-934-2611 TEL: 022-722-0884	FAX: 03-3833-6217 FAX: 06-6536-7456 FAX: 092-451-3433 FAX: 052-934-2615 FAX: 022-722-0796
--	--	--

災害現場で活動する人々を応援する カタログ&情報マガジン

Rising
Personal Protect Equipment for Fire Fighters of Nippon

<http://rise-nippon.co.jp>

RISE 株式会社ライズ

〒730-0055 広島市中区南千田西町4-11

TEL.082-241-0119 FAX.082-241-0118



INFORMATION SQUARE

京都の観光と防災情報を多言語で提供するアプリ

きょうと トリップ プラス

「KYOTO Trip+」

旅先でも
安心&便利!

「KYOTO Trip+」(きょうとトリッププラス)は、京都府と京都市が開発したスマートフォン用無料アプリです。ダウンロードをすれば、京都府内の観光情報などが見られるほか、防災情報として気象警報、特別警報、避難情報なども自動で通知されます。基本的にはどの情報も日本語、英語、簡体・繁体(簡略化されていない)中国語、韓国語の5言語で提供されるので、地元の人のみならず、京都を訪れる国内外の観光客も便利に利用することができます。



3.11 東北を忘れない...

Vol. 8

—東北エリアからのレポート—

仙台市との協働事業で、県内外の方を仙台市沿岸部にお連れして、地元の方と交流を持つ「3.11オモイデツアー」というイベントを月1回開催しています。皆さん最初は、被災された方にどんな言葉をかければ良いのか...と心配して来られるんですが全くの杞憂で、地元のお父さんお母さんたちと一緒に海岸清掃をしたり、ピザ窯で焼いたピザをみんなで食べたりしているうちにすぐに溶け込んでいます。ツアーをサポートしてくれている40数名のスタッフと、地元の皆さんの温かい人柄や受け入れ態勢のおかげだと思います。

12月には、仙台市民に愛された深沼海水浴場行きのバスが、震災前に運行していたルートで1日のみ復活するというイベントを行い、参加された皆さんそれぞれが3.11前のオモイデに出会うことができました。

2017年3月11日は震災から丸6年、7回忌です。亡くなられた方に手を合わせると同時に7年目に向かって歩き出す日でもあります。私たちの団体では、こういった交流をより深めて、町に賑わいを出したいという想いで活動しているので、地元の皆さんと一緒に歩いていくイベントをこれからも作っていきたくと思っています。

仙台に住んでいても四六時中被災地を想い続けることは難しいです。ただ、3月11日という特別な日だけは皆さんの気持ちを東北に送ってもらえたら...それがずっと続いていくといいなと思います。

3.11オモイデアーカイク 代表 佐藤正実



危機管理を学ぶ大学生の伊藤さん。
「災害対策関連の仕事に就きたい」
という夢をもち、災害マネジメントや
リーガルマインドを勉強中!

Q1 日本大学の危機管理学部
に入学したきっかけは?

私が中学校2年生のときに、東日本大震災が起きました。あの時、テレビで繰り返し見ていた福島第二原発の事故の映像がものすごく衝撃的で、高校生になって進路を考えるとき、原子力や廃炉のことを知りたいと思い、原子力工学のある大学へ進学しました。

でも、その大学で学ぶうちに、原発事故が起きた要因には、徹底した危機管理がなされていたことが挙げられるということを知り、危機管理の分野に強く興味を持つようになったのです。そして、日本大学に危機

管理学部が新設されることを知り、いろいろ調べるなか、私が本当に学びたいのは防災や減災に関するのだと気付きました。悩んだ末に受験をやり直し、危機管理学部の一期生として、新たなスタートラインに立つたのです。

Q2 今はどういうことを学んでいますか?

【危機管理学概論】の講義で「災害対策基本法」を学んでい



伊藤 香奈子さん

日本大学 危機管理学部
危機管理学科 1年生

ます。これらの制度では、避難行動要支援者の名簿を、市町村が作成することが義務付けられています。名簿ひとつとっても、個人情報扱つことになるし、要支援者の情報を、消防機関や民生委員が平時から把握する必要がある、避難所などに対しては、本人の同意の有無に関わらず個人情報開示できるなど、さまざまな事柄が法律で決められています。

そうしたことを学び、法律が現場で適用してこそ、災害時の支援が円滑に運ぶのだとわかりました。授業で「リーガルマインド」(法的な問題解決能力)を学んでいますが、危機管理ではこの視点が本当に重要なのだと思うようになりました。

そしてもうひとつ、熊本地震でも学びがありました。あの時災害地へは、いわゆる「プッシュ(押し込む)型」の支援によって、広域物流拠点に物資がたくさ

Q3 危機管理を学び、ご自身のなかに変化や気付きなどはありましたか?

私は「災害マネジメント」に関心をもっているのですが、リスクをマネジメントするという考えは、日常でも大切だと思うようになりました。授業に遅刻しないために、睡眠時間をしっかりと確保するとか、授業の準備を前もってするなど、毎

ん集まりました。でもそこから先の個々の避難所へは、物資がなかなか届かなかったという話を授業で聞きました。私は、国と地域が連携して物流体制を整えることも、防災なのだと思います。物流の重要性を、深く考えるきっかけになりましたね。

Q4 将来の目標は?

「災害マネジメント」の専門性を深め、災害対策関連の仕事に携わりたいと思っています。いろいろな経験を積んで、一歩ずつ、未来の夢に近づいて行こうと思っています。

2016年4月 日本大学 危機管理学部 新設!

「災害マネジメント」「パブリックセキュリティ」「グローバルセキュリティ」「情報セキュリティ」の4領域を体系的に学ぶ、日本初の【危機管理学部】。三軒茶屋キャンパスは地域防災の拠点になるよう、簡易かまどになるベンチが設置されています。



編集後記

災害と一言に言っても、自然災害、人的災害と様々あります。地震大国の日本ですが、近年では諸外国でテロが多発しております。2020年にオリンピックを控える日本では多くの外国の方が来られるかと思ひます。「おもてなし」を大事にする日本で、災害に対する危機管理をしっかり理解し日頃から実践できるようにしていく事が大切と感じました。

編集員 / 伊藤 雅宏

おぼえとこ!! Vol.08 2017年3月発行
編集・発行 / TSP太陽株式会社
〒153-0043 東京都目黒区東山1-17-16
TEL: 03-3719-3357 <http://www.tsp-taiyo.co.jp/>
協力 / 京都府
エジソンハードウェア株式会社
NPO法人日本搜索救助犬協会
日本大学 危機管理学部
制作 / 「おぼえとこ!!」編集委員会

記事に関するご意見、ご感想、取材の申込はこちらのQRコードを読み込んで、お送りください。

